
 学 会 記 事

第 72 回新潟癌治療研究会

日 時 平成 24 年 8 月 4 日 (土)
午後 1 時～
会 場 ホテル日航 4 階 朱鷺の間

I. 一 般 演 題

1 口腔癌手術創に対するポリグリコール酸フェルトシートとフィブリン糊スプレーによる治療経験

小根山隆浩・田中 彰・水谷 太尊
山口 晃・又賀 泉*

日本歯科大学新潟病院口腔外科
日本歯科大学新潟生命歯学部
口腔外科学講座*

【緒言】早期口腔癌手術創に対し、吸収性ポリグリコール酸フェルトシート用いた被覆法（以下 PGA シート法）について検討した。

【対象】2010 年 9 月から 2011 年 10 月までに手術単独治療を行った T1 および T2 扁平上皮癌 25 例で、PGA シート法が 6 例、男性 6 例、女性 1 例、平均年齢 56.3 歳、原発部位は舌 5 例、下顎嚙肉 1 例であった。植皮例は 19 例で、男性 12 例、女性 7 例、平均年齢 69.2 歳、原発部位は舌 12 例、頬粘膜 4 例、下顎嚙肉 2 例、口底 1 例であった。

【結果】平均手術時間は各々 93.0 分と 137.9 分、平均在院日数は 12.0 日と 21.5 日であった。VAS 法による術後疼痛評価では PGA シート法が少なく、舌突出度による術後機能評価は植皮で良好であった。

【結論】PGA シート法は簡便で手術侵襲や術後疼痛が少ないものの、植皮に比べ可動域が少なく、切除部位と範囲を考慮した貼付材料の選択が

必要であると思われた。

2 90 歳以上の超高齢者に手術療法を行った口腔癌 3 例の検討

小田 陽平・船山 昭典・新美 奏恵
芳澤 享子・新垣 晋・齊藤 力

新潟大学大学院医歯学総合研究科
口腔生命科学専攻顎顔面再建学講座
組織再建口腔外科学分野

症例は最近 2 年間に当科で根治的手術療法を施行した 90 歳以上の未治療口腔癌 3 症例について臨床的検討をおこなった。

症例の内訳は① 92 歳・女性、硬口蓋癌 T3N0M0、② 91 歳・男性、舌癌 T1N0M0、③ 92 歳・女性、頬粘膜癌 T3N0M0、の 3 例でいずれも病理組織学的診断は扁平上皮癌であった。全身麻酔下に腫瘍切除術をおこない、全症例 QOL の低下なく生存しているが、症例①では術後 3 か月より局所再発をみとめ、経過観察中である。

【考察】超高齢者に対する治療方針は苦慮する場合も多いが、早期癌で切除可能である場合はリスクも十分考慮しながら手術することにより口から食べる機能の維持にもつながる場合があり、有効な医療となりうる場合も多いものと思われた。今回、当科では① N0M0 症例、② 2 時間以内の手術、③ PS および ADL の評価、④ 患者および家族の意思、に重点を置き手術療法を選択したが、近年では手術の可否を含めた治療法選択アルゴリズムも考案されており、今回の症例にあてはめて考察を加えた。